

日本免疫毒性学会学術大会について			日本免疫毒性学会の今後の活動や方向性等について、ご意見やご提案等ありましたらご記入ください	ImmunoTox Letter (6月と12月の年に2回発行している学会誌；日本版と英語版があり、それぞれのpdf版を学会HPに掲載中)について、ご意見、ご提案等ありましたらご記入ください。
興味をもたれた（おもしろかった、勉強になった等）セッションやテーマをあげてください	その他ご感想等ありましたらお願いします	今後取り上げてほしいテーマや、その他ご意見等ありましたらご記入ください。（本学術大会では、抄録集の印刷版を事前配布しておりませんが、その点についての意見等々）		
1 International sessions	oral発表して、discussionを受けるのが一番の魅力。年会長さんは、1つの特別講演と1つのシンポジウムの調整のみで	抄録の事前配布無しOK。受付もそこまで混み合うまでにはならないし	将来構想WGへ私も入りたい（メール討論とかが居ればsub-memberとして是非リクルートして、福山君とか寺山くんとか、中西先生（岐阜薬科）、木戸くん。去年は少しTop Downで決めちゃったし、企業の先生も。	pdf版のみならず、各章を各章シリーズでHTMLで見れる様にもしています。って事もご了解ください。まあこれが必要かどうか。古い船には新しい水夫が乗り込んで行くだろう。古い船を今動かせるのは古い水夫じゃないだろう。なぜなら古い船も新しい船のように新しい海へ出る。古い水夫は知っているのさ新しい海のごわさを。新しい水夫のみなさんはドンドン乗り込んで来てくれれば古い船もいつしか新しい船になり新しい海を航行できます。つまり今の最新の医学研究の大きな高い波もうねりも波も乗り越えることが出来るのです。私は本当に古い水夫なので、早く引かせてくれえ。
2		印刷物が事前に手元に無くて不便でした。メモを事前にしたり（バラバラになってしまうので）、アクセス情報を得たりと、一元管理が出来なかった為です。	とても活発なディスカッションをプレゼンごとにみることができ、レベルも高く、今のままでいけば、自然に会員がupするようになり重くなりました。	継続おつかれさまです。
3 勉強になった。	ポスターのスペースが少なかった。		若手の活躍できる企画を設けて下さい。	
4 O-02	スペースの関係もあるかもしれませんが、朝イチで参加証をもらうレーン数が少なく、結構並びました。もっとレーン数を増やしていただけるとありがたいです。	宿泊地と会場が離れている場合、今回のようにバスでお迎え頂けるかと大変ありがたいです。		
5 特異体質性薬物性肝障害の免疫学的機序	月火よりも週の後半に年会を開催してほしい。	事前配布無しは、経費節約に繋がるのでよいと思いました。		
6 EL-01		抄録集はpdfのみ、あるいは希望者のみに印刷物を配布する形が良い。事前配布は不要		

7	教育講演は大変勉強になった。	ポスター発表の時間が短かったです。口頭とポスターの比率は丁度良いです。総会を前日の午後に（市民講座と同じ日）に開催するのはいかがでしょうか。		
8	WS, S, SL-02	ラボの現場での議論を聞いているようになりなりました。	事前配布は不要だと思います。	関連学会（例えば毒性学会）との合同シンポジウムorワークショップを本学会でも企画されてはいかがでしょうか。
9				マイナーな点で申し訳ありませんが、座長や質問者の方がマイクを使わずに発現されることが時々ありました。貴重なコメントを共有いただける機会ですのでご配慮頂けると助かります。
10	生殖免疫毒性			
11		シンポジウムや教育講演・特別講演の後の自由時間が（スケジュール押しのため）無かったのが少し残念でした。	抄録は今回のシステムでもOKかもしれない。初日のレジストレーションがスムーズだったら良かったです。	面白い意見がくるといいですね。こちら、いい意見がくればと思います。
12	WS バイオ医薬品の安全性評価			
13	Danuta先生のご講演			
14		今回は「はじめて発表します」と仰っていた演者が数名おりました。プログラムを組む次点でそれを認識するのは難しいかもしれませんが、初参加発表の方の発表を初日にすれば懇親会などでも話題が作り易く、持続継続的に当学会に参加してもらえる様になるのではないかと思います。学会員を増やすのに大事な取り組みだと思います。	抄録集は事前にwebで確認できれば問題ない。むしろ荷物が軽くなるので好ましい。	製薬であったり、材料工学であったり、今のトレンドを知りたい。問題が生じてからの後手の研究では無く、世界的にどのような物質に人々は曝露されるようになるのか、知識を得られる企画があると良い。
15		中村先生、係の皆様お疲れ様でした。		
16	ポスター	ポスターセッションの時間が短いと思いました。	microDNA, vaccine, virus, cell等の免疫毒性	

17 教育講座	時間がタイトであった。関連のオプション的なものがあったとしても良いかも。ミニポスターディスカッション（飲み物・軽食あり）若手向きのあつまりを前夜に持っても良いかも。		
18 生殖免疫			学生の参加を促進する 試み、プログラムがあるとよいと思います。
19 横井先生の講演, 試験法ワークショップ		分子生物学的な分野	
20 特別講演1, SL-01	レギュレーションの国際動向なども取り上げて頂ければと思います。	レギュレーションの国際動向なども取り上げて頂ければと思います。	・アジア各国の研究者との交流の促進 ・社会への情報発信 ・in vitro法行政受け入れの状況
21 生殖免疫毒性, バイオ医薬品の安全性評価			
22 シンポジウム（生殖免疫毒性）	活発なディスカッションで良い。	特になし	最近のポスターや口頭発表の学術的な質が上がってきていると感じている。
23		アレルギー	
24			
25			
26 特別講演	良かったです。		季刊雑誌化
27 試験法ワークショップ		抄録集の事前配布不要（netで見れば十分）	本年のWSは良かったと思う。
28 バイオ医薬品の安全性評価法の最新動向			
29 S01-04, EL-01, 試験法ワークショップ, LS-02	試験法ワークショップの時間にもう少し余裕が欲しい。討議とレジメの時間がほしいです。	事前配布無しについては、今回のようにHP上に演題要旨をアップしてもらえば、余り問題は無いでしょう。ただし、日程表とプログラムは早めにアップロードして欲しいです。	ストレス反応-炎症反応-免疫毒性（特に免疫亢進）の関係を体系的に取り上げたテーマを期待します。
30	ポスター会場の通行が困難であった。		
31 シンポジウム「生殖免疫」, 試験法ワークショップ「バイオ医薬品の安全性評価法」	ポスターの発表討論時間を少し長くとももらえればと思います。また口頭発表は少しゆとりを持たせたプログラムとして頂きたい。	抄録集の印刷版の事前配布は出来れば前年までと同様に行って頂くか、事前参加の登録した人が要旨まで事前にpdfでみられるようにしてもらえればと思います。	若い方々の本学会への一般論文の投稿が増えることを希望 勧誘をさらにすすめて 頂きたい。